



赤十字奉仕団

視察研修に参加して



平成30年 5月19日(土)

松本市は名峰連なる上高地を中心... 山岳に囲まれている。そして、山岳に引き寄せられるように多くの河川が流れている。中央地区にも女鳥羽川が流れており、昭和三十四年八月にはこの女鳥羽川が台風七号の影響を受け氾濫し、中央地区にも大きな被害をもたらしたこともあった。

こうした災害に直面した際も、地区での防災意識を高めておくことで有事の際も慌てずに地区の防災に住民全員で取り組むことができるのではないかな。

の雄大さを感じることができ

砂防フィールドミュージアムでは、山国である信州が警戒すべきである災害の一つである、土石流や地滑り、がけ崩れなどの豪雨や河川の氾濫などが中心に引き起こされる災害についての講習を受けた。

映像などを通して、山ひとつが崩れてゆく光景や、突如として河川が氾濫し土石流となる光景を見て、豪雨がもたらす災害の恐ろしさを全員が胸に受け止めることができたのではないだろうか。そして、このミュージアムの目玉でもある「降雨体験装置 あめ太郎」は、雨天時の自動車運転にどのような危険が伴うかを体験することができる装置である。車内においても豪雨が車体を打ち付ける音が強く、フロントには水が溜まり、ワイパーが機能しないような雨は恐怖を感じるほどだった。これらの体験や講習を通して自然の雄大さを知るとともに、自然の恐ろしさも知ることができた。自然と共存してゆくには地区にも災害などに対する心構えが必要であることも感じる事ができた。こうした意味では非常に有意義な視察研修であった。

地域づくりインターン 正木 輝



降雨体験装置「あめ太郎」

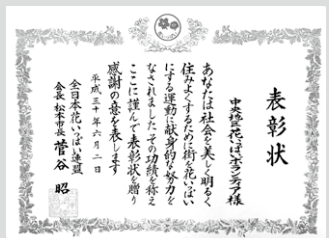


平成30年度 赤い羽根助成事業について

丸の内町会は、社会福祉法人共同募金会の「安心・安全なまちづくり活動支援公募配分事業」を活用し、防災用具の一部として、折りたたみリヤカー、災害用車いす各1台を赤い羽根助成金によって整備しました。これにより災害発生時に負傷者運搬や機材移動が出来ることになり、防災活動に大きく寄与する事が期待されます。

花いっぱいボランティア表彰

平成30年6月2日に開催された「第58回全日本花いっぱい尾道大会」において、中央地区花いっぱいボランティアグループが表彰されました。松本城西公園花壇、西堀公園、道路沿いのプランターなど、中央地区に訪れる多くの人々を、花いっぱいでもてなしするみなさんの活動の賜物です。



長元坊 チョウゲンボウ

通勤と、健康増進を兼ねて、城の外堀り通りを、ウォーキングするのが日課です。

「春夏秋冬」通りの木々、堀の水、小鳥たちが色々な姿を見せてくれるのが楽しい。

春には、足元に咲くタンポポの花が、集団で満面の笑顔で迎えてくれる。雨上がりの桜の木の幹の、あまりの黒さにはっ!!とさせられたり、満開を過ぎた花びらが風に吹かれ「宇野千代」の着物の紋様を水辺に型どる、又は打出し鍋の底の様な小波だったり、太陽に反射したエメラルドグリーンの水が眩しい。

秋には、枯葉が風に吹かれて、よおい、どん!!と足元を絡み合いながら走る様が、我が家のいたずらっ子とだぶって可笑しい!!

私のささやかな至福の一時です。日本の四季は、人の心を癒してくれます。

過去を振り返らず、一瞬一瞬の感動を積み重ねながら、残りの人生を楽しみたい。

(Y・F)





一、

信濃の国は十州に

境つらぬる国にして

聳ゆる山はいや高く

流るゝ川はいや遠し

松本伊那佐久善光寺

四つの平は肥沃の地

海こそなければ

万足はぬ事ぞなき

「信濃の国」は昭和四十三年五月に県歌に制定され、今年で五十周年の節目を迎え多くの人々の話題となっており

ます。周知のようにこの歌は松本城近くの鷹匠町出身の浅井冽(あさい きよし)が明治三十二年に作詞したものです。

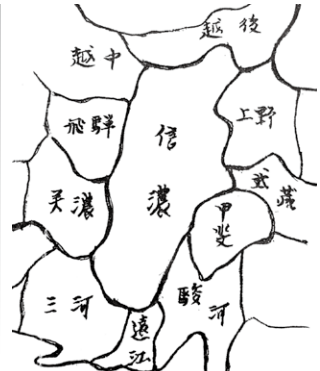
明治九年、旧長野県(北信)と筑摩県(中南信・旧二ノ丸御殿内に県庁)が合併して新たに長野県が誕生しました。しかし、この県名の片寄りに反発があり、それに配慮して連帯感のある歌をとの願いにより「信濃の国」を作って協調を図ったという逸話があります。

この歌には「長野」という言葉は一切使われていません。全体的に県内の地理風土がほぼ平等に盛り込まれ、七五調の親しみやすい曲となつています。周辺十州(八県にぐるりと囲まれた広大な地域をまとめて心一つにして歌える「信濃の国」はみんなの愛唱歌です。

いつ口ずさんでも心温まるこのメロディーはこれからも県民の誇りある財産として愛しまれ歌い継がれていくことでしょう。

大柳町町会 島田 辰雄

信濃の国をとりまく十州



十州とは

- 越中(富山) 上野(群馬)
- 飛騨(岐阜) 武蔵(埼玉)
- 美濃(岐阜) 甲斐(山梨)
- 三河(愛知) 駿河(静岡)
- 越後(新潟) 遠江(静岡)



平成30年6月5日(火)に、松本城西公園花壇の花植えが行われ、中央地区の住民と信州大学附属松本中学校(以下、附属中)3年A組花いっぱいグループの生徒12名が参加し、二千株を超える花を植えた。

附属中では、総合の時間を using、生徒たちが自ら何をするか決め、活動をしている。なぜ附属中の生徒達が松本城西公園花壇の花植えに参加しているのか。今回は館報編集委員が生徒に直接インタビューを行った。

Q どんなことがきっかけで花いっぱいグループに関わったのか?

A 一つは卒業生から引き継いで活動していること、一つ目に、松本市が花いっぱい運動発祥の地であることを知っていて、着目しました。

Q 松本城西公園花壇の花植えに関わったのはなぜか?

A 学校で植えた花が松本市で開催された食品ロス削減全国大会の会場に飾られたこともあり、

学校外でも花植えをして地域に関わりたいと思いました。

Q 今回の花植えに関わってどんな感想を持ったか?

A 花の植え方を教えてもらい、地域の方々と協力をし、花の大切さを実感することが出来ました。等間隔に植えるのが難しかったですが、こんなに広いところに植えるのは初めてで、友達に自慢をしました。水をあげたり、草を抜いたり、管理するのは大変ですが、「きれいだね」と言ってもらえると嬉しい気持ちになります。

Q 花いっぱいの活動を通じて松本市がどうなつたらいいか?

A まずは松本が花いっぱいになればいいと思います。信号待ちなどのふとした時に、花が目にとまると、心が穏やかになると思います。そして花いっぱい運



80名を超える参加がありました。

動を通して松本が活性化したら良いと思います。今回の取材を通して、子どもたちが地域に関わり、色々なことを感じようとしている姿がはつきりと伺えた。地域が一体となって、子どもたちを支え、育てていくことが必要だと感じた。

松本城の野鳥たち ④④



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が松本城周辺で撮影

くちばしだけ黄色。全国の水辺で一年中見られる。他のカモの雌に似ているが、比較的大型。腰の部分に白い三日月模様、飛ぶとき、腹は黒く見える。水辺の草地に巣を作る。グエ、グエと太い声。

雛は5月に生まれ、7月に巣立つ。松本城のお堀で子育てするカルガモもいる。(日本野鳥の会ホームページより引用)